

幼保小中合同研修会の実施報告について

1. 概要

(実施日時) 令和7年9月30日 午後3時～午後5時

(実施場所) 門真市立門真市民プラザ4階 研修室A

(参加者) 中学校5名、小学校22名、園37名 計64名

(グループ) 11グループ (はすはな中A・B、二中A・B、三中A・B、四中、五中A・B、七中A・B)

(目的)

本研修会は、門真市就学前教育・保育共通カリキュラムについての理解を深めるとともに、幼保小の架け橋プログラムについて学び、幼保小中が連携し就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図ることを目的として実施しました。

東大阪大学名誉教授の吉岡眞知子氏より「架け橋期カリキュラム」についてご講演いただいたのちに「子どもに学びを委ねる」をテーマとして、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校の教職員が一堂に会し、発達や学びの連続性について意見交換を行いました。

参加者は各所属における実践や課題を共有し、幼保小中の相互理解と連携を深めることを目的としました。

2. 架け橋期において大切にしていること

本研修会の開催にあたって、参加者に事前に「架け橋期において大切にしていること」について、聞き取りを行いました。

以下に、6つに整理しています。

①児童・園児の理解と個性の尊重

- ・一人ひとりの持ち味や思いを理解
- ・「やりたい」思いや自主性を尊重し、選択・決定の機会を設ける
- ・個々の気持ちを大切にしつつ、活動や学びに参加できるよう支援

②学び・生活の基盤づくり

- ・学習習慣・生活習慣の基盤を形成

- ・話す・聞く・考える・伝える力の育成
- ・集団活動や協力体験を通じて、社会性や人とのつながりを育む
- ・遊びや体験を通して、自然に学習や探究へつなげる

③自律性・主体性の育成

- ・自分で考え行動し、試行錯誤で解決策を見つける経験
- ・自分のやりたいことを自分で決めて行う探究・自律性の促進
- ・自分が何かできるという有能感を育む
- ・自分の思いや意見を言葉で伝える力を育成

④安心・信頼の環境づくり

- ・幼児・1年生が安心して過ごせる環境の整備
- ・教員・保育者が楽しむ姿を見せ、学びへの興味をもたせる
- ・「わからない・教えて・助けて」が言える環境の整備
- ・通いたいと思える学校・園環境の整備

⑤保護者との連携・支援

- ・子どもの主体的活動や学びの大切さを保護者に伝える
- ・小学校生活への不安や疑問を抱え込まないように、相談・共有の機会を設ける
- ・入学前・1学期後半の連絡会で得た情報を保護者に提供
- ・保護者の安心感を重視し、家庭との連携を強化

⑥授業・活動の工夫（小学校）

- ・授業形態を2分割・3分割にして集中力を維持
- ・座学にこだわらず、多様な活動で意欲的な学びを促進
- ・各教科での導入や教室環境の工夫により、学習への興味を喚起

3. 本研修会の意見交換の場でも出された意見

以下に、各意見を抜粋・5つに整理しています。

①子どもを信じ、見守る姿勢

- ・信じること

子ども自身に育つ力があることを信じるのが重要である。教えすぎず、答えをすぐに与えずに待つ姿勢が必要である。

- ・見守りと共感

子どもの思いや気持ちを受け止め、第一声は「どうする?」「どうしたい?」など、子ども主体の問いかけを行う。

②教材・環境の工夫

・適切な教材・環境の整備

子どもの発達や興味に応じて、できることを基盤にしつつ、できない部分には適切な支援や挑戦の機会を設ける環境を整える。

・時間のゆとりと自由

型にはめず、子どもがやりたいことを尊重できる時間や環境を確保する。休み時間や自己選択の場面では、大人が我慢し、子ども主体の活動を大切にする。

③委ねる・自己選択

・自己決定・自己選択の尊重

子どもにやりたいことを決めさせ、選択肢を与えることが重要である。

・小さなステップでの委ね

子どもが繰り返し経験できる場面をつくり、興味関心に沿った支援を行う。

・大人の引き際

遊びや活動において大人が引くことで、子どもが主体的に行動できる環境を整える。

④対話・共感・関係づくり

・子ども同士の関係づくり

子ども同士をつなぐ環境をつくり、真似や観察を自由にできる場を提供する。

・対話と相互理解

思いを伝え、異なる考えを楽しむ心を育てることが重要である。

・家庭とのつながり

家庭との連携を意識した見守りや支援が必要である。

⑤教える姿勢から共に考える姿勢へ

・大人は相談役

子どもに全権委任し、教える姿勢ではなく共に考える姿勢をとる。

・アイデアの肯定と深掘り

間違いをすぐに正さず、子どもの自由な発想やアイデアを尊重する。

・ケンカの仲裁は控えめに

子ども自身で解決する場を尊重することが大切である。

<まとめ>

各グループの意見から、以下の視点が共通して見られました。

1. 子どもの主体性を信じ、見守ること
2. 自由・選択・体験の場を大切にすること
3. 対話や共感を通して関係を築くこと
4. 大人はサポート役に徹し、押し付けないこと

これらの視点は、幼児教育から小中学校教育における子ども主体の学びや生活支援の推進に有益であると考えられます。

4. アンケート結果報告

本研修会実施後、参加者を対象にアンケートを実施しました。

①アンケート回答状況

回答数：43 件

(参加者数：中学校 5 名・小学校 22 名・園 37 名・計 64 名)

②設問別結果の概要

設問	「とてもそう思う」割合	「まあまあそう思う」割合
① 今回の研修は、期待や要望に応えることができたか	約 40%	約 60%
② 研修内容を理解できたか	約 42%	約 58%
③ 今後役に立てることができると思うか	約 37%	約 63%

→ほとんどが肯定的な評価となっており、研修に対する満足度は高い結果となりました。

③自由記述からの主な意見・傾向

(1) 学び・気づきに関する意見

- ・ 「保育園・幼稚園・こども園における“遊びの中での学び”が印象的だった」
- ・ 「幼保の先生方の丁寧な教材研究や環境づくりに刺激を受けた」
- ・ 「委ねることと規律は対立ではなく表裏一体であると感じた」
- ・ 「主体性を育むためには、待つ・見守る姿勢や環境設定が重要であると再確認した」

→ 幼児教育の視点から学び直す機会となり、学校教育における実践改善の意欲が高まったことが伺えます。

(2) 連携・交流に関する意見

- ・ 「普段関わることの少ない小中学校の先生方と話ができて貴重だった」
 - ・ 「幼保小中が同じテーマで意見交換する機会が非常に有意義だった」
 - ・ 「お互いの立場を尊重しながら連携する必要性を感じた」
- 幼保小中の垣根を越えた交流の意義が多く参加者に実感されており、今後の継続開催を望む声が多数見られました。

(3) 今後の課題・要望

- ・ 「具体的な実践例や事例紹介がもう少し欲しかった」
 - ・ 「同じ中学校区内での意見交換をさらに広げたい」
 - ・ 「小学校1年生の実際の生活・学習の様子を知る機会があるとよい」
 - ・ 「勤務年数や経験年数を考慮したグループ分けも有効では」
- 今後は、校区単位での深掘りや実践事例の共有など、より実践的な内容への期待が示されました。

5. 総括

今回の研修は、「子どもに学びを委ねる」というテーマを通して、教育・保育現場における主体性の育成と規律の両立、また幼保小中の連携の重要性を再確認する機会となりました。

各園・学校から寄せられた意見や実践の工夫は、門真市架け橋期カリキュラムを策定するうえでの大切な視点や基盤となるものです。

こうした現場の思いや取組を踏まえ、「子どもが主体となって育ち・学ぶための共通理解」をもとに架け橋期カリキュラムの策定を進めていくことが重要です。

今後も、園や学校の枠を越えた協働の場を継続的に設け、現場の実践と架け橋期カリキュラムが相互に高め合うよう取り組みを進めます。

(参考 1: 「架け橋期において大切にしていること」抜粋)

【園】

- ・《やりたい》思いを大切に、自分で選択して決める機会や《やりたい》時に《やりたい》ことができる環境を整える。
- ・個々の気持ちを尊重しながら、みんなで活動する楽しさが感じられるようにする。
- ・わからない・教えて・助けてが言える。
- ・友達と協力してやり遂げる経験
- ・試行錯誤しながら自分なりに解決策を見つける。
- ・就学に向けての興味意欲を高める。
- ・友達との対話、人とのつながり
- ・自分が何かできるという感覚 有能感
- ・自分のやりたいことが自分で決めてできる 探求と自律性
- ・自分で考えて行動する。
- ・自分の思いを言葉で伝える。
- ・相手の気持ちになって考えられる。
- ・基本的な生活習慣を確立する。
- ・主体的な学びを大切に捉え、普段の生活、保育の中で意識的に取り入れる。
- ・集団（仲間）での学びを大切に捉える。
- ・色々なことに挑戦し、経験を広げる。
- ・保護者支援
- ・子どもの気づき（発見）や試行錯誤する、主体的に活動する大切さを保護者に知らせていく。
- ・保護者が小学校生活への疑問や不安を強くもちすぎないように、聞いたり共有したり、気軽に話せる機会を大切にしている。また、入学前及び1学期後半の進学時の連絡会（情報交換）で得た情報は保護者へも情報を提供するようになっている。

【小学校】

- ・児童の持ち味をつかむ（一人ひとりの子どもを理解する）。
- ・保護者とつながる（保護者の安心感）。
- ・教員が楽しんでいる姿を児童に見せる（いろんなことに興味を持たせる）。
- ・1年生児童と学校の人たちをつなげる（教員・上級生など）。
- ・1年生が安心して過ごせる環境づくり（集団づくり、人をつなげるなど）

- ・通いたいと思える学校環境づくり
- ・個に応じた丁寧な指導
- ・教室環境の工夫
- ・各教科での導入の工夫
- ・遊びから学習へ自然につなげる経験
- ・安心して生活できること：入学直後の不安を和らげ、友だちや先生との関わりを通して「学校は楽しい」と感じられるようにする。
- ・学習習慣や生活習慣の基盤づくり：話を聞く・考える・伝えるといった学びの基本を、無理なく身に付けられるように支援する。
- ・45分の授業にすぐに移行せずに、2分割、3分割の授業形態にし、子どもが飽きないように工夫した。
- ・席について学習することにこだわらず、いろいろな活動を通して子どもが意欲的に学習できるよう心がけた。

(参考 2 : 研修で出された意見抜粋)

1. 子どもを信じ、見守る姿勢

- ・信じる : 子ども自身に育つ力があることを信じる (七中 B、三中 A)
- ・待つ・見守る : 答えをすぐに与えず、子どもの主体的な行動を待つ (七中 B、二中、はすはな B、三中 A)
- ・気持ちの共感 : 子どもの思いや気持ちを受け止める (七中 B、七中 A、三中 B)
- ・第一声 : 問いかけは「どうする?」「どうしたい?」など、子ども主体の問いかけを重視 (七中 B)

2. 教材・環境の工夫

- ・適切な教材環境 : 子どもができることを用意し、できないことも理解して環境を整える (七中 B、三中 A)
- ・時間のゆとり・自由 : 型にはめず、子どもがやりたいことを尊重できる時間・環境を作る (五中 B、三中 B、四中)
- ・自然発生の大切さ : 休み時間や自己選択の場面で、大人が我慢し子ども主体の活動を重視 (五中 A、五中 B)

3. 委ねる・自己選択

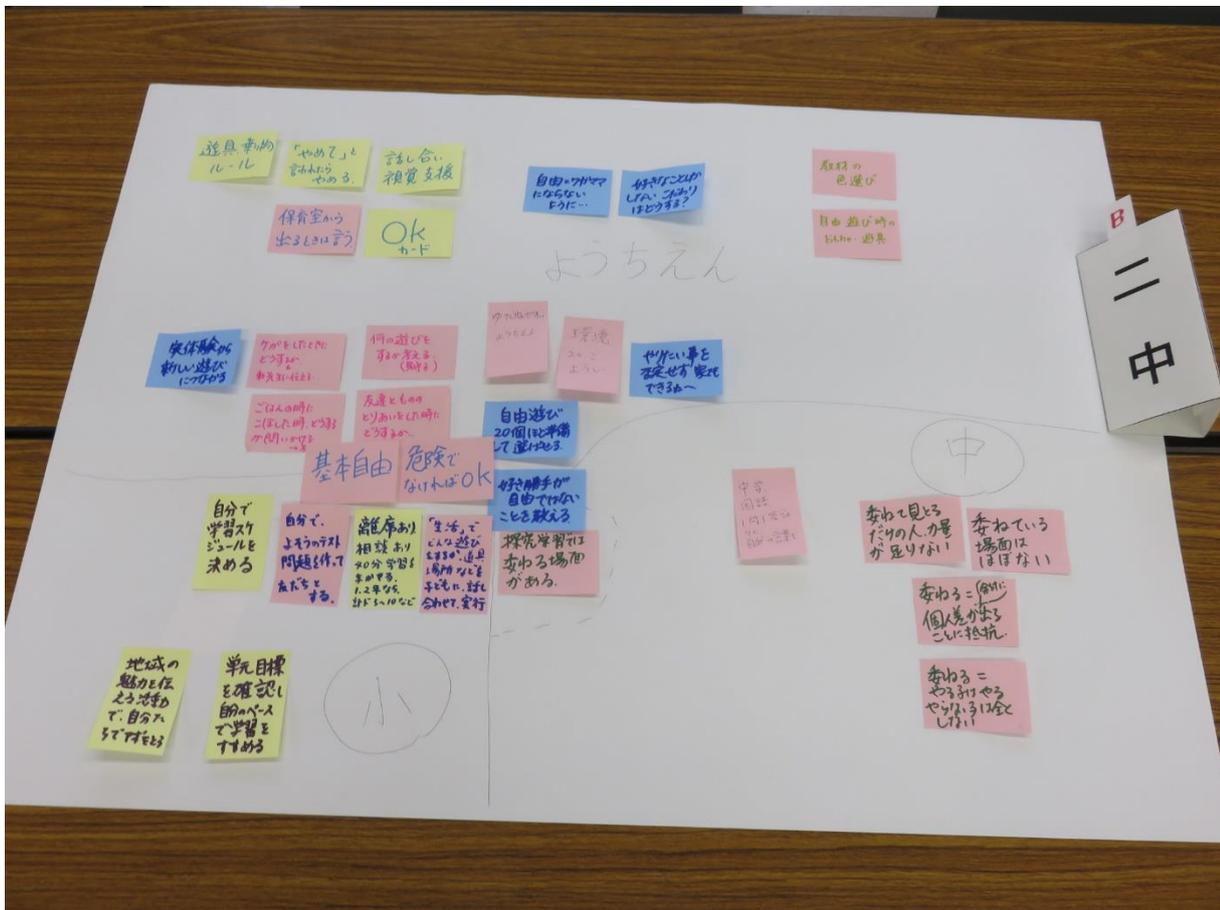
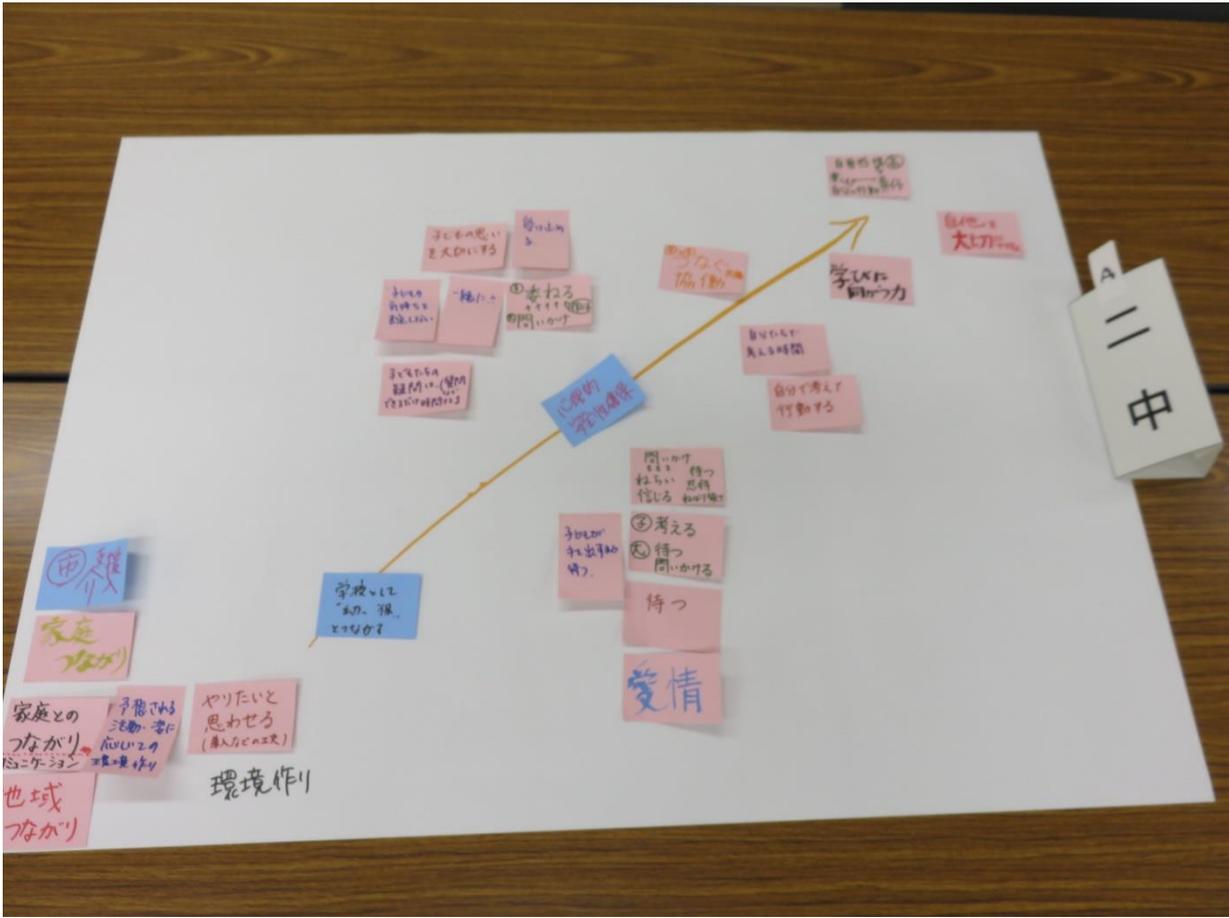
- ・自己決定・自己選択 : 子どもにやりたいことを決めさせ、選択肢を与える (はすはな B、三中 B)
- ・小さなステップでの委ね : 繰り返し経験できる場面を作り、興味関心に沿った支援 (七中 B)
- ・大人の引き際 : 遊びや活動で大人が引くことで、子どもが主体的に行動できる (三中 B)

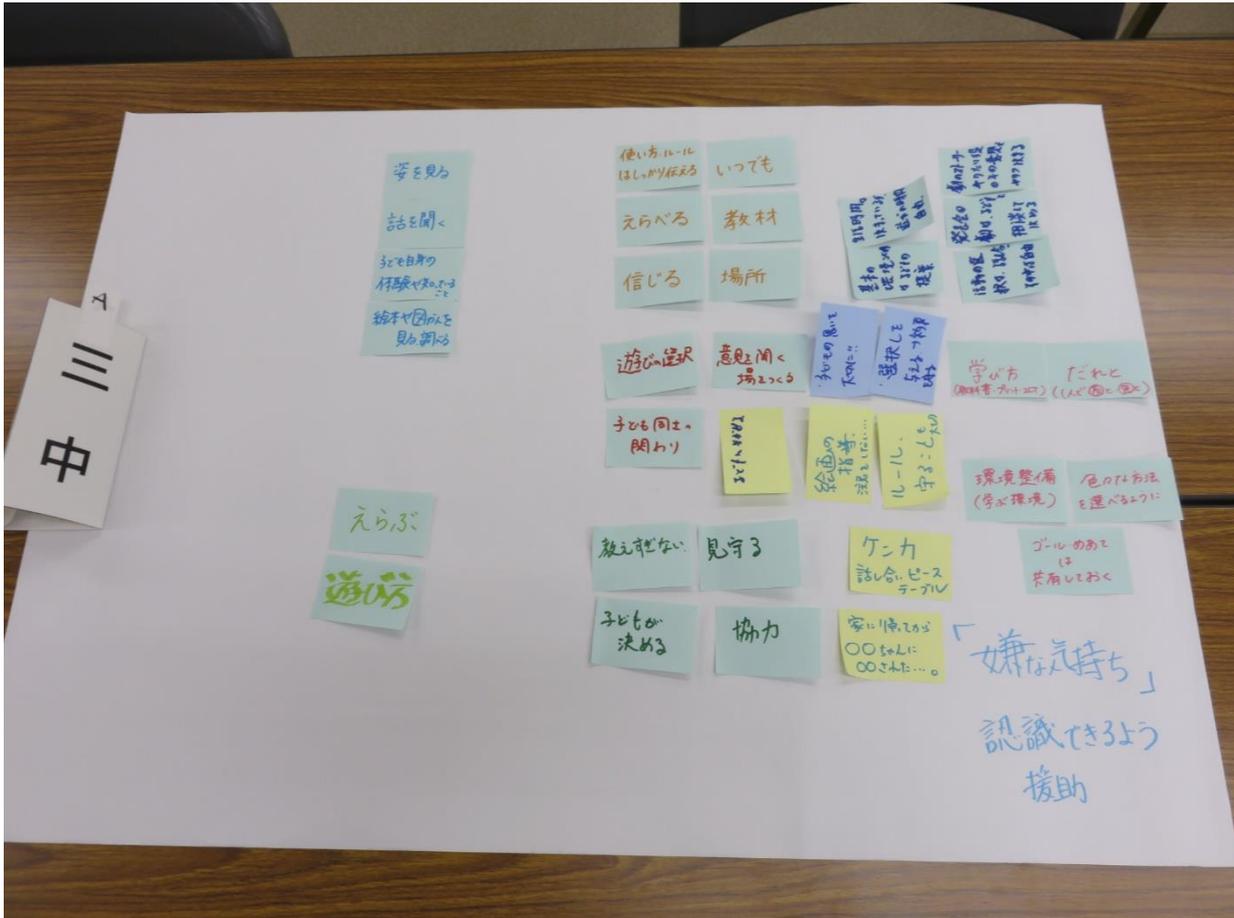
4. 対話・共感・関係づくり

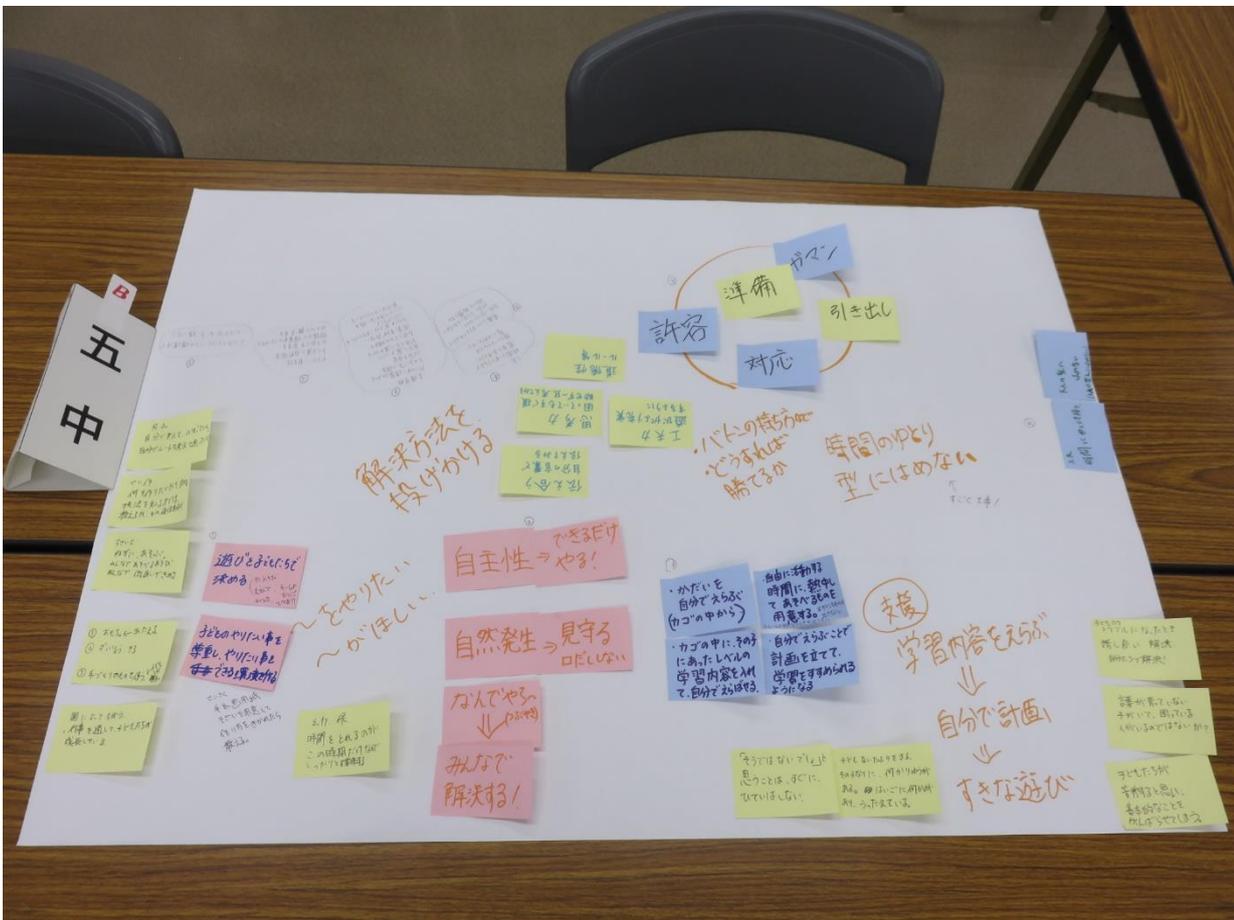
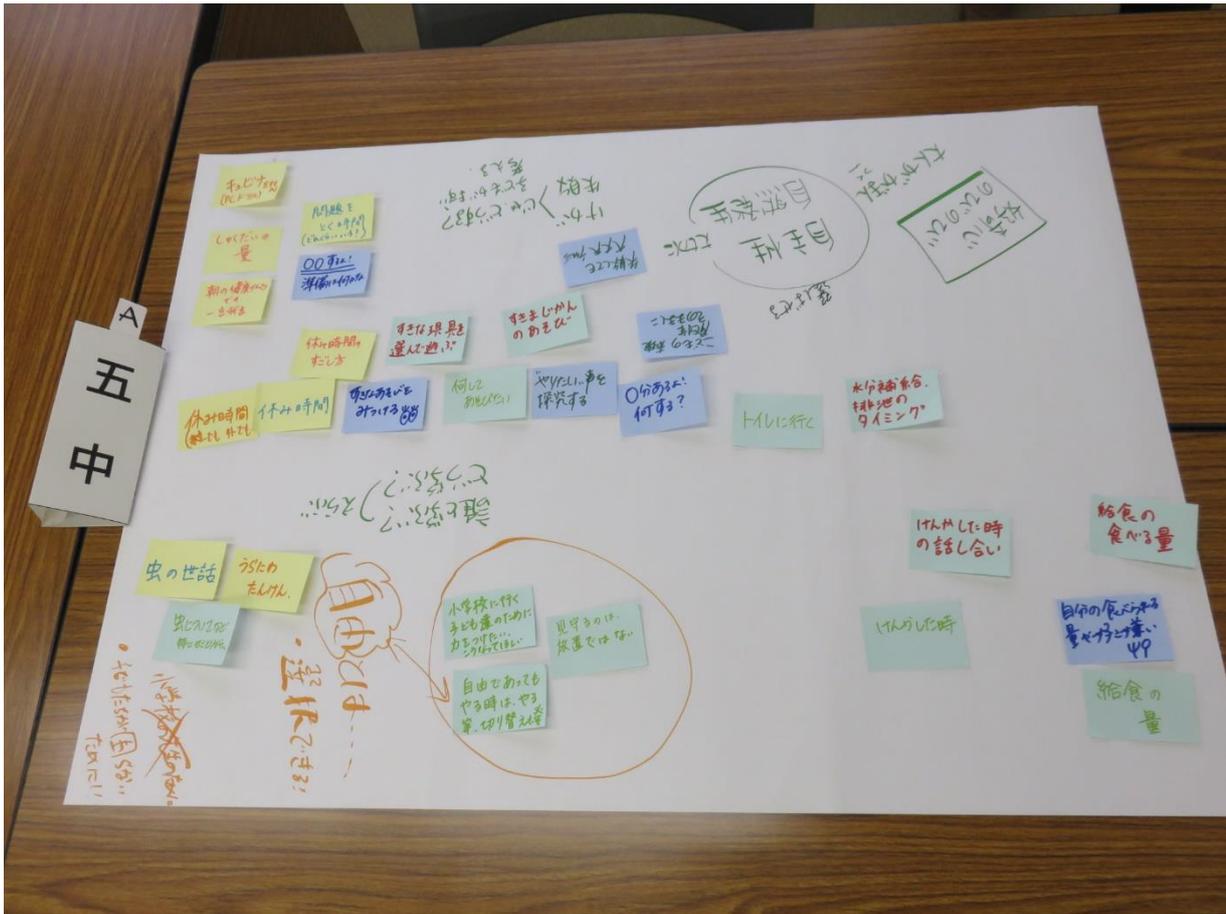
- ・子ども同士の関係 : 子ども同士をつなぐ環境、真似や観察の自由 (はすはな B、四中)
- ・対話・相互理解 : 思いを伝え、違う考えを楽しむ心を育てる (四中)
- ・家庭とのつながり : 家庭との連携を意識した見守り・支援 (二中)

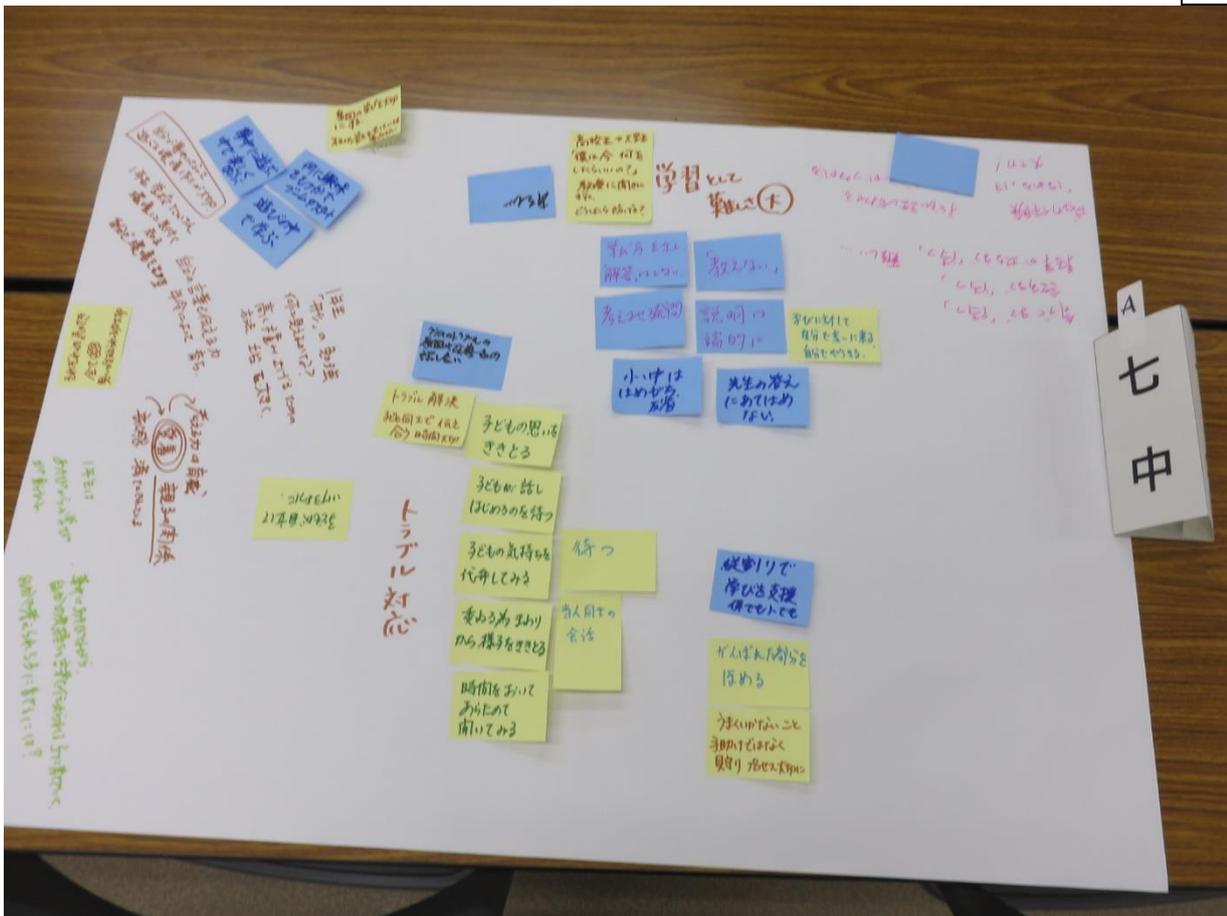
5. 教える姿勢から共に考える姿勢へ

- ・大人は相談役 : 子どもに全権委任し、教えるのではなく共に考える (三中 B)
- ・アイデアの肯定と深掘り : 間違いをすぐに正さず、自由な発想を尊重 (はすはな A)
- ・ケンカの仲裁は控えめ : 子ども自身で解決する場を尊重 (はすはな A、五中 A)









(参考 4 : アンケート自由記載部分抜粋)

D. 今日学んだこと、明日から (今後) 取り組めることをご記入ください。

園 :

- ・子供としっかりと対話をしていく。
- ・小学校に入るために何かをするのではなく、その子どものためになること、力につくことを意識して取り組んでいきたいです。それが架け橋になると思うので。
- ・小学校、中学校の先生方と対話する中で、改めて感じた就学前での土台づくりの大切さ、また、学校での取り組みの変化など、他の職員に伝え園として、できることを考えていきます。
- ・見守る、待つということは忍耐が必要だが、これからの保育、教育には大切なことなのでやっていきたい。
- ・子ども達に委ねるという事には必ずルールがあり約束もあるということ。

その中で自由に取り組み、でも取り組ませる為には、環境作り・先生たちの密な話し合いが必要である事が分かり、もっと先生達が保育について、全体で話し合いをして行かなくてはいけないと思いました。そのことをまた、小学校に届けて、そこでもしっかりと話し合いをし、連携を密にとっていきたいです。

小学校 :

- ・各校や各園などの話を聞く中で、普通の授業で待つことや問いかけなどを大切にしたいと思いました。
- ・子どもたちに響く声かけが大切だと思いました。
- ・小学校や幼保、中学校の取り組みを知ることが出来ました。どちらかが求めるだけでなく、お互いの取り組みを尊重しながら連携をしていくことが必要だと感じました。
- ・小学校の入学に向けてして下さっている様々な準備を知ることができ、それを活かして今後小学校 1 年生への委ね方などを考えていければなと思いました。門真小は、主体を中心に個を意識されているかなと思うのですが、保幼は集団の中でというのを意識されていて、保幼での集団での形成があってこそ、個が生きてくるので、この研修はそれを共有することができてよかったです。
- ・委ねることと規律は違うようで同じことだと感じる。前の教育フォーラムでも同じように捉えました。まずは規律をしっかりとさせるために取り組んでいきます。
- ・架け橋期の具体的取り組みへの校内の機運の醸成
- ・就学前教育では、遊ぶことで学んでいけるよう工夫されていることが分かりました。小学校、中学校では、学習が中心でゆとりのないカリキュラムの中、工夫して委ねる取り組みに着手されていることも分かりました。
- ・架け橋プログラムは、保幼と小をつなぐだけでなく、生まれてから大人になるまでの長い期間で子どもたちの成長や学びをどうつないでいくかを考えるために必要だと改めて思いました。子どもの自己選択を促すために、教師側が

関わりや環境を整えていくことはもちろん、自己決定と責任は表裏一体だという意識を育てることも大事だと感じました。カリキュラムとしてやらないといけないことはあるにしても、それを学ぶ過程をどう設定していくか、校内でも考えていきたいと思います。

- ・保育園、幼稚園の先生方が大切にされていることを小学校でも大切にしていきたい。小学校での取り組みを発信して小学校へのハードルを低くしていくことも大切だと感じました。

中学校：

- ・保育園・幼稚園・こども園における遊びの中での教育が素晴らしいと思った。教材研究や環境づくりにどれ程の時間や労力をかけていらっしゃるのかというところに想いを馳せると、中学校でももっともっと丁寧に対応していく必要があると感じた。規律の中での自己決定、そこに伴う責任、それらを行うことができる場の設定を考えていきたい。

- ・子どもの興味関心を尊重して、自己選択自己決定させて、見守る。そのためには準備を念入りにする。可能な限り総合ではしていますが、教科指導でも是非！

- ・自分の言葉で表現できるまで待つ忍耐力を持ちたいです。

E. ご感想やご意見、また、今後の研修等での希望などがあればご記入ください。

- ・具体的な事がもう少し多く紹介があれば、さらに良かったと思います。

- ・小学校、中学校の先生方ともっと話し込みたかったです。

- ・同じ校区でも保幼小中の先生方とそろって話すことはなかなかないので、とてもよい機会になりました。とても有意義な時間だったので、一つの中学校区でできるだけたくさんの教職員が集まって今日のような話ができればいいなと思いました。

- ・有意義な研修会だった。特に、保育園の先生方とは、普段、話す機会が少なく、「子どもに選択肢を与える。子どもも主体の活動をめざす。」など、小中学校と同じ目標をもって、日々、子どもたちに接していることがわかった。自校においても、より一層、保幼小中を意識して、子供たちの自己実現のため、教育活動を行おうと思った

- ・今回のような研修をなるべく多く行い、保育内容、教育内容の中で大切にすることを、確かめ合う機会をとってほしい。

- ・意見交流会の対話はとても楽しくて大事。校内研修でもっと取り入れたいです。多様な視点や考え方を知ることほど学びが広がる機会は無いですね。授業でも同じことだと思いました。

- ・今後もこのような研修を重ねていくことが大切だと痛感しました。

- ・こういった交流会は大切にできるといいですね

- ・幼稚園や保育園の先生方のお話は新鮮で刺激を受けました。

・「子どもに委ねる」というテーマから「自由とは」、と話に変化していったのが本質的で面白いなと思いました。